北臨技 NEWS

一般社団法人 北海道臨床衛生検査技師会
北臨技 NEWS No.403 2025.12.25
TEL:011-786-7071/FAX:011-786-7073
http://www.hokuringi.or.jp

■ 年頭のご挨拶 ■

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、健やかに 2026 年の新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また、日頃より北臨技の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。2025 年の北臨技の事業につきましては、北見市で開催しました第 97 回北海道医学検査学会（畑中学会長）をはじめ、北臨技講習会、基礎セミナー、精度管理セミナー「コスモス」等、順調に進めることができました。また、一般社団法人移行時から進めてまいりました公益目的支出計画も当初の計画より早く完遂できましたこと、会員、賛助会員の皆様に感謝申し上げます。

さて、日臨技学会や他の専門学会でも「医療 DX」「AI」がキーワードとして多くみられた年でした。皆さんの職場でも少しずつ浸透し、検査の精度向上や業務効率化が進められていくでしょう。しかし、それは我々の仕事が奪われるのではなく、技師一人ひとりの専門性と判断力の価値が、これまで以上に強く求められていくものと思います。また、昨年は日本人研究者がノーベル賞を受賞するという明るいニュースがありました。ノーベル生理学・医学賞に坂口志文氏（大阪大特任教授）、化学賞に北川進氏（京都大特別教授）が選ばれました。基礎研究の積み重ねと科学的探究心の重要性が、改めて社会全体に示されました。この快挙は、日々臨床検査という形で科学と向き合う私たちにとっても、大きな誇りであり、専門職としての使命を再確認する契機となりました。一方で、働き方改革、人材確保、若手技師の育成といった課題も引き続き重要なテーマとなっています。広域性を有する北海道において、質の高い検査体制を持続的に提供するためには、教育・研修の充実と、会員相互の連携強化が不可欠であります。

本年も会員の皆様のご支援とご協力をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。結びに、皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

（北臨技　会長　早坂光司）

■ 2025 年度　日臨技臨床検査精度管理調査　■
総合報告会　参加報告

令和 7 年 11 月 29 日に開催された日臨技臨床検査精度管理調査総合報告会（千葉県幕張メッセ国際会議場）に、参加してまいりました。今年度は全国で 4000 超の施設が調査に参加し、報告会は現地・オンデマンド配信のハイブリッド形式で開催されましたが、400 名以上の現地参加がありました。

報告会では、日臨技会長の挨拶があり、各部門代表者からの報告・解説後、3～4 部門ごとに質疑応答が行われる形で進行されました。各分野のフォトサーベイでは、正答率の低い問題や教育問題の詳説、その他出題意図や主旨の説明がありました。また、バーチャルスライドを用いた調査が本格化し、報告がありました。各分野のコントロールサーベイでは、試料内容、評価基準の設定方法や各項目の特筆事項等について説明がありました。今後の日臨技精度管理調査に関し、経済面から科目・規模の縮小・見直し、値上げ等を議論中とのお話もありました。

全体を通じ、臨床検査結果の標準化・統一化のために、外部精度管理調査は極めて重要であることを改めて認識するとともに、外部精度管理調査の進展を感じました。北臨技としても参加意義のある外部精度管理調査を継続し、発展させていきたいと思いますので、各施設におかれましては引き続き積極的な参加をお願いしたく存じます。

次年度からは、オンデマンド配信のみとなります。皆様もご参加いただき、全国調査の動向を知っていただきたいと思います。

（北臨技　生物化学免疫部門長　髙橋祐輔）

■ 令和 7 年度日臨技北日本支部　■
医学検査学会　参加報告

令和 7 年 11 月 15 日から 16 日に開催された、令和 7 年度日臨技北日本支部医学検査学会（新潟県 朱鷺メッセ）に参加しました。一般演題として病理細胞部門で行われている、免疫染色サーベイの取り組みおよび二次サーベイに関する発表をさせていただきました。

各都道府県の病理部門では様々な染色サーベイを行っていますが、それらの活動について報告をしている地域はごく一部です。また、北海道で行われている二次サーベイに関しては類似した報告が少ない状況です。これらの活動について他部門を含め広く知っていただくことと、道内で行われている活動を道外の方にも知っていただくために、日臨技関連学会で発表することを決めました。

発表自体は昨年も病理細胞部門で行っていたこともあり、スムーズに準備を進めることができ、無事に終えることができました。合間を縫って展示や講演を聴講しましたが、学会は地域の特性を生かした企画がされており、学会会場内でのイベントのほか、新潟市内でのおすすめ紹介なども積極的に行われている様子でした。準備にかかわっている現地の方々がより良い学会にしようと連携している姿は、大変そうにも楽しそうにも見え、非常に活気のある学会でした。

学術活動は大変なイメージをお持ちの方もいらっしゃるかと思いますが、参加だけでも新たな発見になるかと思いますので、学会参加に少しでも興味を持っていただければ幸いです。今後とも北臨技活動へのご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

（北臨技　病理細胞部門員　佐井 絵里花）

日臨技の会員証がアプリになりました！

《ダウンロードサイト》

今までのカードタイプの会員証は来年度から発行されません。
そのかわりに専用アプリでスマホに表示できるようになりました。詳細は日臨技ホームページをご覧ください↓

https://www.jamt.or.jp/membership-card/

iPhone 版　Android 版